

## サービス輸出が、繁栄の新たな道を開く

[プラカシュ・ラウンガニ](#)、[クリス・パバジョージョ](#)、[ケ・ワン](#)

2017年4月5日

サービス分野は、すでに世界の所得の半分、雇用の70%を占めていますが、今また、国際貿易の重要な要素となりつつあります。総輸出のほぼ4分の1を占めるサービス輸出は、主に技術進歩のおかげで、世界経済の中心的役割を果たすようになってきました。

通信コストの急激な低下、世界中でのインターネット導入の増加、およびブロードバンド・インターネット・サービスの普及により、長距離間でのサービスの提供が可能となりました。散髪をしてもらうには、今も地元の理髪店に行く必要がありますが、保険や医療診断など、他の多くのサービス分野では、サービス供給者がもはや顧客の近くにいる必要はありません。

我々の新しい[研究論文](#)では、世界のサービス貿易に関する数多くの詳細なデータセットを用いて、この変化を追跡調査しています。サービスのそうしたバーチャル貿易が、多くの国において財輸出に追いつきつつあるだけでなく、新たな成長源の機会を提供し、特に新興市場国・地域ならびに発展途上国・地域では、生産性や雇用の伸びにつながる可能性があることを論証しています。

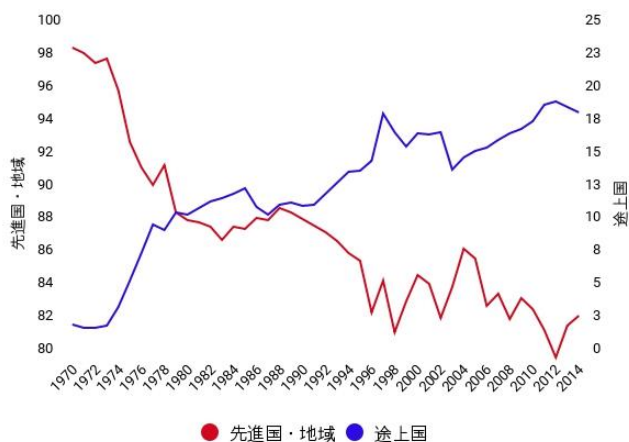
### 途上国・地域の新たな成長の源泉

多くの国々で、こういった技術進歩の利用が可能ですので、サービス輸出の増大は、先進国・地域に限定されるものではありません。途上国からのサービス輸出は、1990年以來10倍、先進国・地域からのサービス輸出の2倍の速度で伸びています。従って、途上国の占める割合は、1970年の3%から2014年にはほぼ20%に増加しています。この増加は、旅行や輸送といった従来のサービス輸出の高まりによるばかりでなく、現代の技術によって可能となったサービス、例えば、ビジネスサービス（研究開発やコンサルタント業

#### サービスの注文は伺っておりますか？

途上国からのサービス輸出は、1990年以來10倍、先進国・地域からのサービス輸出の2倍の速度で伸びている。

(サービス輸出のシェア)



出所: 2017年 ラウンガニ、ミシュラ、パバジョージョ、およびワン。

務も含む)、コンピューター・情報サービス、金融サービス、および知的財産権などのサービスの増加によるものです。

最近の**研究結果**によると、従来は製造業が成長の重要な原動力となっていました。それと同じメカニズムによって、サービス分野の生産性が伸びているようです。技術によって、益々サービスの細分化が可能となります。

つまり、今では、単一のサービス活動を複数の仕事に細分化し、地理的にそれぞれ異なる場所で実施することが可能です。ビジネス・プロセス・アウトソーシングやオンライン・バンキング・サービスがその例です。財と同様、専門化（より細分化された分業）および規模（生産の単位コストの低下）により、サービスの生産性を高めることができます。

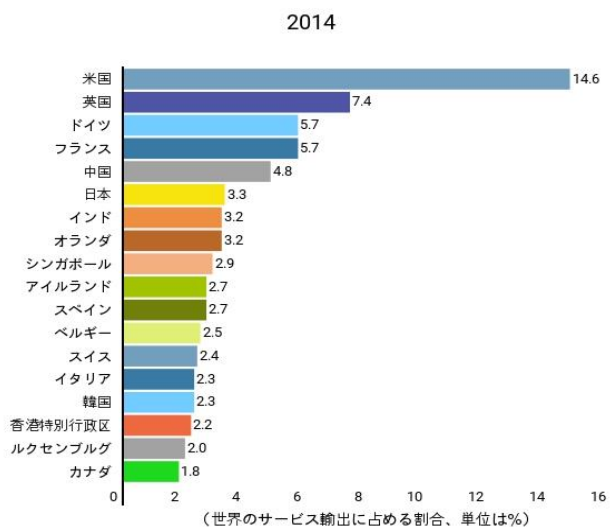
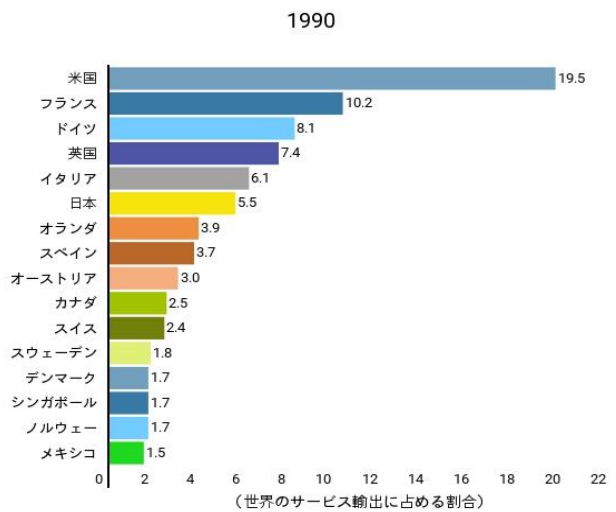
### 新たなデータセットによるサービス輸出の追跡調査

成長の原動力が実際に製造業からサービス分野に移行しつつあるかどうかを断言するのは時期尚早かもしれませんが、サービス輸出の増大は、追跡調査すべき重要な変化です。我々の**研究論文**は、その取り組みに貢献しています。世界のサービス貿易に関する新たなデータセットを導入し、192カ国を対象に1970年から2014年にかけての調査を行いました。我々は、IMFの国際収支統計データベースの情報を利用し、サービス輸出の66業種における推移を追跡調査しました。**ポータルサイト**により、定型化された事実やチャートを作成するためのデータおよびツールへのアクセスが可能です。

この豊富なデータを用いて、サービス輸出における世界的な動向とサービス輸出の様々な側面において、各国がどのように異なるかを実証しました。世界レベルでは、コンピューター・情報サービス、そして金融サービスが、サービス輸出全体の中で、最も重要な2つのセクターとして浮上しています。2014年には、世界のコンピューター・情報サー

上昇中

米国は、依然、最大のサービス輸出国だが、中国とインドが、今では、トップテンに入っている。



出所: 2017年 ラウンガニ、ミシュラ、パバジョージョ、およびワン。



国際通貨基金

ビスの輸出額は、3,000 億ドル、輸出総額の 10 パーセントに達しています。同様に、金融サービスの輸出額も急激に伸びており、世界金融危機以降回復を見せ、2014 年には、ほぼ 3,500 億ドルに上っています。

ここに掲載したチャートは、1990 年と 2014 年の世界のサービス輸出における、追跡調査対象国から抜粋した国々のシェアを示しています。米国は、その重要性が大幅に減少しましたが、依然、最大のサービス輸出国です。中国は財輸出国として有名ですが、その中国も、重要なサービス輸出国となっています（2014 年では 5 位）。インドは、ビジネス・プロセス・アウトソーシングおよび金融や医療のサポート・サービス輸出でよく知られていますが、今では、サービス輸出のトップテンに入っており、そのシェアは、2000 年から 2013 年の間に 3 倍になり、世界のサービス輸出の 3% 以上を占めるに至っています。タイ、ブラジル、インドネシア、エジプトは、現在トップ 30 に名を連ねていますが、急速に上位へと移動しています。

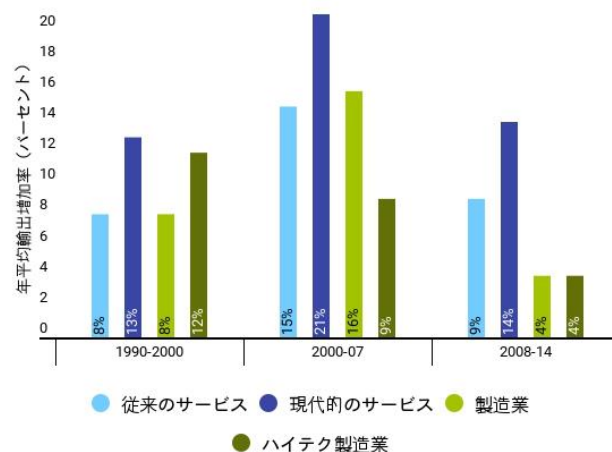
### 成長戦略への影響

我々のデータセットは、研究者や政策立案者も利用可能で、世界経済における現代のサービス分野の増大しつつある重要性および構造的転換の過程におけるサービス輸出の役割を研究することができます。輸送や旅行、小売業といった従来のサービスは、まだ提供者がその現場に居合わせる必要があります。しかし、それでも、グローバル・バリュー・チェーンの不可欠な要素であることから得るものも多く、燃料効率の点も含み、革新技術によって可能となった大幅なコスト低減によって、交易の可能性が高まりました。さらに、現代的サービスの輸出へのシフトは、所得レベルの異なる様々な国で広がり、世界貿易の中で最速の伸びを見せている部門の一つとなっています。

中国やインドを含む多くの新興市場国・地域では、サービス主導型の成長源泉を追求しています。サービス主導型成長はまた、各国に多様化と競争力の機会を提供します。これは、発展の全階層の国、特に資源国や低所得国に当てはまりません。現在、サービス分野は、多くの製造業の生産性に大いに貢献しています。情報通信技術サービスの利用による生産効率の向上や生産コストの低減など、自国の製造業部門発展のために、各国はサービス分野を必要としています。

#### 急速に拡大中

現代的サービスの輸出（例：ビジネスサービス、金融サービス、知的財産権）は、世界経済において最速の伸びを見せている部門の一つ。



出所: IMF、国際収支マニュアル第 6 版、2016 年国連商品貿易統計、および著者による算出。



国際通貨基金

サービス貿易は、労働再配分および雇用創出の機会を提供します。また、労働市場の拡大する分極化への対処に資する可能性があります。一次的な研究結果では、平均して、サービス輸出において高い伸びを見せている国々は、雇用もより速く増大することを示唆しています。サービス貿易はまた、ショックや金融危機に対する耐性が財貿易よりも高く、途上国からのサービス輸出は概ね、先進国・地域からのサービス輸出よりも耐性があります。

### 世界にとってウィン・ウィン状況

我々のデータセットにより垣間見えた以上のことは、サービス輸出が、ゲーム・チェンジャーとなり、世界経済の統合を維持する機会を提供するかもしれません。先進国・地域にとっては、ハイテクサービスの貿易が、グローバルな競争力を幾分保持する助けになるかもしれません。同時に、サービス貿易の可能性が増大することで、資源国や低所得国の多角化戦略の促進が可能となります。そして多くの国にとっては、サービス分野が、例えば、女性への雇用機会の提供により、包摂的な成長への道筋をつけるかもしれません。

\*\*\*\*\*



**プラカシュ・ラウンガニ**：IMF 調査局開発マクロ経済部門の責任者。2011年から15年までIMFの雇用と成長ワーキンググループの共同議長を務める。ヴァンダービルト大学オーエン・スクールの経営学非常勤教授。同校のエグゼクティブMBAプログラムにて2001年より教鞭を取る。OCPポリシーセンターの上級研究員。



**クリス・パパジョージョ**：IMF 調査局開発マクロ経済部門の副責任者。それ以前は、IMF 戦略政策審査局に勤務。2006年にIMFでの勤務開始以来、ウガンダ、タンザニア、米国についての研究を行い、低所得国の諸問題に関するIMFの政策業務の指導的役割を担う。現在は、バヌアツのミッション・チーフ。主として、経済成長および国際マクロ経済学に焦点を当てた分析を行う。これまでに数多くの研究論文を発表、欧州経済レビューおよびIMF経済レビューの編集委員。



**ケ・ワン**：IMF 調査局開発マクロ経済部門のエコノミスト。以前は、IMFの西半球局、戦略政策審査局、アフリカ局、世界銀行の東アジア太平洋局に勤務。国際経済学、金融理論、および開発に焦点を当てた研究を行う。アメリカン大学にて博士号を取得。